

没後100年“ドビュッシー”と生誕200年“グノー”を聴く

プログラム

今年はフランスを代表する二人の作曲家、没後100年に当たるドビュッシーと生誕200年に当たるグノーのアンバーサリーイヤーです。ドビュッシーは生誕150年の年にも大特集を組みましたので、今回はその時取り上げられなかった作品とお馴染みの名曲をその時とは別の演奏でお聴きください。

長調、短調という調性的な和声法から抜け出し、もっと自由でさまざまな旋法を駆使した独自の世界を作り上げたドビュッシーは20世紀音楽の窓を開けた作曲家とも言われます。1894年マラルメの詩に基づいて書かれた「牧神の午後への前奏曲」はその代表作で、印象主義という手法を確立しました。1915年に作曲されたフルート、ヴィオラとハープのためのソナタは3つの楽器の絶妙な組み合わせによって様々な響きが解け合い、独特の音楽空間を造り上げています。1905年に作曲、描写音楽というよりも海の印象を音のイメージとして表現した交響詩「海」はドビュッシーを代表する最高傑作です。

グノーといえばバッハの「平均律クラヴィーア曲集第1巻」の「前奏曲第1番」を伴奏にして完成させた歌曲「アヴェ・マリア」があまりにも有名ですが、12曲のオペラ、宗教曲、歌曲、管弦楽作品まで、フランス近代音楽の先駆者的な役割を果たした作曲家です。小交響曲は管弦楽作品の中でも最も良く知られた作品で、管楽器による軽妙なリズムと親しみやすいメロディが魅力的な佳曲です。歌劇「ロメオとジュリエット」はシェイクスピアの有名な悲劇をオペラ化、洗練された美しい旋律に溢れたフランス・オペラを代表する名作です。歌劇「ファウスト」は文豪ゲーテの『ファウスト 第一部』を基に作曲された傑作です。1868年のオペラ座での上演で、当時のグランド・オペラの慣例に従って追加したのが「バレエ音楽」で、親しみやすい魅力的な旋律に溢れた傑作として単独でもしばしば演奏されています。

クロード・ドビュッシー (1862~1918):

フルート、ヴィオラとハープのためのソナタ

ミシェル・デボスト(Fl)/ユーディ・メニユーイン(Vla)/リリー・ラスキーヌ(Hp)
(1974 EMI盤)

牧神の午後への前奏曲

マニュエル・ロサンタール指揮フランス国立管弦楽団
(1990.9.27 パリ、シャンゼリゼ劇場でのLive)

交響詩“海”(管弦楽のための3つの交響的素描)

セルジュ・チェリビダッケ指揮フランス国立管弦楽団
(1974 パリ、シャンゼリゼ劇場でのLive)

*** 休憩 ***

シャルル・グノー (1818~1892):

歌曲“アヴェ・マリア”(J.S.バッハ)

プラシド・ドミンゴ(T)/マルチエツロ・ヴィオッティ指揮ジュゼッペ・ヴェルディ交響楽団
(2002.2 グラモフォン盤)

小交響曲変ロ長調(9つの管楽器のための)から 第1楽章~第4楽章(第3楽章一部割愛)

ヤクブ・フルシャ指揮ブラハ・フィルハーモニア
(2011.10.12 ドヴォルザークホールでのLive)

歌劇“ロメオとジュリエット”

プロローグ~第1幕“私は夢に生きたい”(ジュリエット)/出会いの二重唱(ロメオ、ジュリエット)

第2幕“ああ、太陽よ昇れ”(ロメオ)/第5幕 フィナーレの二重唱(ロメオ、ジュリエット)

アンドレア・ロスト(S…ジュリエット)/マルセロ・アルバレス(T…ロメオ)

マルチエツロ・ヴィオッティ指揮ウィーン国立歌劇場管弦楽団/ウィーン国立歌劇場合唱団
(2004.6.23 ウィーン国立歌劇場でのLive)

歌劇“ファウスト”~第5幕 バレエ音楽

1. ヌビアの踊り 3. ヌビアの奴隷の踊り 4. クレオパトラとその奴隷達の踊り
5. トロイの娘の踊り 7. フリネの踊り

リッカルド・シャイー指揮ベルリン放送交響楽団
(1984.3.12 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)